

第3回 福生駅西口地区公共施設整備

実施計画検討委員会議事録

令和2年10月2日実施

福生市都市建設部まちづくり計画課

第3回福生駅西口地区公共施設整備実施計画検討委員会議事録

日時：令和2年10月2日（金）9：30～

場所：福生市役所第2棟4階委員会室

（出席者）

委員：北島浩子、村木修、森田宏次、三浦佳江、中出雅俊、橋本満彦、撰梅敏夫、
坪井由紀子、高山佐代子、林宣之

事務局：北村章、大村正仁、豊嶋実

撰梅委員長

第3回検討委員会に御出席いただきまして、ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の拡大防止で、本委員会も、本来4月に、開催をする予定以降、開催を見合わせてきました。久々の開催になりますけれども、本日、次第に沿って意見交換をよろしく願いいたします。先日、7月の28日に、私と副委員長の北島さんとあと事務局で、福生高校に伺って10名の生徒から意見を聞かせていただきました。内容は、先日、委員の皆様にご郵送していただいた資料のとおりで、有意義な意見を聞くことができました。後ほど、資料を読んで、意見を寄せていただいた方の説明をさせていただきます。

また、施設のイメージを感じていただくために、他の公共施設の見学を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、視察の許可がなかなかおりませんので、現地視察の見通しが立ちません。本日は、事務局と相談して、本委員会で、施設の画像ですね、見させていただいて、説明をいただくことにします。市民目線で使いやすい施設をつくるため、引き続き、委員の皆様の建設的な建設的な意見をよろしく願います。本日はよろしく願います。

一つの施設の映像を見て頂いたら一度御意見をいただき、それが終わったら次の施設の映像へ移る、そういうような形で、進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。この後はすいません着座にて進めさせていただきますので、失礼いたします。

（神戸市スライド）

大村主幹

説明の方をさせていただきます。まず、1点目の事例ですけれども、これは公共施設の周辺整備ということで、これは神戸ですね、関西の兵庫県の神戸市ですけども、神戸市内の路地を、こういうような形で広く使って。ベンチを置いたり、少し休憩施設を置いたり、ただ道路を道路として使うのではなくて、公共空間として憩いのある空間として使っていこうというような形で、道路をうまく活用している事例になります。このベンチの左側に、この辺りにスターボックスがあって、ここで買った人たちが、この椅子やベンチを使って、くつろげるような、そういうものをうまく活用している事例でございます。次お願いします。これは道路の歩道部分を単に広げるわけではなくて、そこにちょっと憩いのスペースをつくりまして、例えばイベントをやるときにはここに、お店等を、キッチンカーみたいなものを置いて、にぎわいをつくっていくという、そういうようなまちの設えにしております。次お願いします。これは、市役所

の隣の公園です。公園を毎週土曜日曜に、マルシェをやったりイベントをやるということで利用しています。私がたまたま行ったときにはマルシェをやっておりました。地元の方ですとか近隣市町村の方が、特産物等を持ち寄って販売をしているという、これは皆さんでサークルや組合をつくって、団体の申請をしていただいて市が許可をして、使用していただいているような事例です。次お願いします。これは先ほどの道路をうまく活用する事でこういうような形で、単純に歩道としての整備ではなく、少し憩いの空間とか滞留空間をつくって、町なかをただの通過、交通の空間にしないというような、そういう滞在型の施設整備を目指したつくりになっております。次お願いします。これは先ほどのベンチをちょっとワンブロック離れた歩道橋の上から撮影したものです。ここがスターボックスになります。ここが太い道路が真ん中に相互通行であったのをあえて狭くして、しかもこれよく見ていただくとわかるのですけれども少し曲がっています。スピード抑制効果を持たせながら、しかも一方通行にしております。こういうことで、まちの中の快適性を少しでも高めようというような、こういうような事例もございます。次お願いします。これの反対側から見たものです。次お願いします。ちょっと写真飛び飛びでありますけれども先ほどの公園でのマルシェの様子ですね。ちょうど神戸ですので、近くの六甲ですとか、淡路島の方からも、いろいろ物産を持ってきて、これ販売をしていると。次お願いします。これもそうですね、同じような形で、写真撮っていいですかと聞いたら、これはぜひ宣伝してくださいということでした。次お願いします。同じですね。次お願いします。このような形でですね、自分たちの看板をつくって、こういうことをやってますよっていうので、これ朝の9時半に私行ったのですけれどもかなり待っている人がいまして、非常にこれも市民の認知度が広がってですね、今後西口での、空間の活用の一つの参考にもなるのかなと思っております。次お願いします。これは先ほどと同じ内容ですね、道路をうまく使っています。次お願いします。これも同じですね。次お願いします。これは道路なのですけれども、太い道路にしてしまいますと、どうしても自動車の速度が上がり気味になるということで、交差点の手前をこういうゴムラバー性のポールなんですけれども、これを使いながら、少し交差点の手前の幅員を絞るというような形をとっております。これによって注意喚起と速度の低下を促していきたいということで、今回の福生駅の西口地区もで、こういうものを、面的整備の中に数カ所取り入れて、なるべく歩行者にやさしいまちづくりとこれをちょっと考えていきたいなと思っております。先行事例ということですが、かなり神戸市という大きな市になるのですけれども、そこの事例でございました。一旦ここでスライドを止めますので、御意見等ある方は、お願いいたします。

坪井委員

1階部分というか、ロータリー部分になるのだと思っていたのですが、2階部分が通路っていうか歩行者向けのエリアだと思っていたのですけど違いましたでしょうか。

大村主幹

2階部分もデッキで回遊できたり、公共施設に直に入るように、今のところは考えております。もちろん1階部分も下において、下も歩道等をロータリーの周りを歩けるようにはしております。全てを分けてしまうと、歩行者動線が完全に通過してしまいますので、2階は2階で回れるよう、例えば1階でもあるように、選択肢をより多く取れるような、そういう構造考えております。

坪井委員

ありがとうございます。そうしますと、1階がかぶさっている部分の下にイメージができるっていう感じですか。

大村主幹

あれが全てではないんですが、あれはあくまで参考事例ということですので、当然用地的な制約とかもございますから、ところどころにベンチを置くとか、そういうことはちょっとできないと思うのですけれども、道路を一定の幅員をとったら、この建物の中に、例えば2メートル下がってもらって、そこを、街路樹を植えたりですとか、ベンチを置いたりですとか、そういうことは考えております。

坪井委員

はい。あとベンチのことなのですが、最近いろんな、行政がベンチのことで悩んでいるわけではไม่ใช่、通称意地悪ベンチというようなものが増えてしまっていて、本当に今見たようなベンチは本当に少なくなっていますので、私はああいうベンチがあったほうがいい、意地悪ベンチが実は好きではない。ですけど、そういった兼ね合いとかも、市のほうではいろいろ考えなのかなと思う次第です。すいません、どうしてくれということではなくてそういうこともあるのかなあと、いろいろな方が懸念されることの一つなのかなと。思いました。

大村主幹

ベンチについては今後、設計を進めていく中で、当然いろいろな専門家の意見ですとか、いろいろな方の意見を聞きながら、場所ですとか、形はちょっと考えていきたいなと思っております。

(明石市スライド)

大村主幹

次は兵庫県の明石市の図書館部分ですね。こちらはやはりですね、図書館の中に、こういうようなフリーな学習スペースがあって、学生さんですとか、学生さん以外にも、サラリーマンの方ですが、調べものをしたり勉強したりする人がこういう形で、書架のスペースの間にこういうようなスペースがあってこういうのを活用されている事例でございます。次お願いします。これも同じですね、こういうスペースが図書館の中にふんだんにあって、こういうふうに学習をされたりしております。次お願いします。こちらが、本の自動消毒器です。誰が使ったかわからない本を借りるときに、やはりちょっと、ウイルスの感染が気になるという方は、これ紫外線系の消毒器なのですけれども、この中に借りたい本を入れて借りていくみたいな、そういうような、機械も備えられているということでございます。次お願いします。はい、これは図書館の中でも、ふるさとの資料コーナーということで、そのまちの歴史ですとか特産ですとか、そういうものに関連部門ですね、資料ですとか図書を専門的に、集めたコーナーでございます。結構こういう形のところが今全国的に流行ってしまっていて、ふるさと創生の流れもございしますが、自分たちの地元を良く知ろう、そういうようなコーナーが結構見受けられます。次お願いします。これはフロアガイドですけれども、明石市の駅前で、複合施設になってしまっていて、子ども子育て関連の施設ですとか、図書館ですとかそういうものが一体になっております。ここの図書館の事例としましては、図書館のフロアの下に書

店さんが入っているということです。ですので、4階で見ておもしろいなと思った本を実際に購入したい場合には、ツーフロア下の書店に行って購入をするというような、そういうことも可能であると。そういうような連携しているのですかね、融合も図られていると。複合施設ですので、隣接する食堂街に行ったりそういうところでも回遊しながら使われているような事例になっていると思いました。次お願いします。これが、図書の学習室ですね。書架が並んでいるところの隣に、学習室がありまして、ここは予約制で入れるような学習室です。事前には予約もしくは当日空いていれば、予約をして、ここで勉強できると。ですので、誰かれ構わずふらっと来て、ふらっと入れるというわけではないと。武蔵野プレイスなどは、図書カードを持ってない人は、学習室に入れないような、そういうようなものになっております。次お願いします。真ん中の吹き抜けに沿って、机が並んでいまして、書架で借りた本を、一旦カウンターに持って行く前にここで見たり、こちらで勉強している学生さんや一般の方が多くおりました。こういうようなスペースがあると、非常に、特に中高生などは居心地がよくなるのかなとは思っております。次お願いします。はい。こちらが、図書の貸し出しカウンターで、これは広く貸し出されていて、この右手に子どものフロアがあります。ここは一般の方が、借りたり返したというようなところですけど、基本的に借りるのは自動貸出機がありますので、ほとんどの方がこちらを利用しておりました。運営については、指定管理でやっているということですので、市の職員はほとんどいません。次お願いします。こちら、本のカウンターかなと思いましたが、先ほどの本会議室カウンター側にございまして、その正反対にカフェがあります、ドリンクコーナー。このドリンクコーナーで、最初私も間違えたのですけれども、そしたら、ここはカウンターではなくてドリンクコーナーでした。このドリンクコーナーで、ドリンクを買って、フリースペースでドリンクを飲みながら雑誌を読んだり、ちょっと借りてきた本を読んだり。こういうフリースペースがございます。ですので、かなり居心地がいいっていいのですかね、そういうような空間になっております。次お願いします。これも先ほど見た学習室ですね。学習室がいくつかありまして、学習室2とか3とかありました。これは子ども用の部屋です。子どもさんの図書ですとか、読み聞かせをしたりするような部屋です。はいお願いします。こちらはですね、目の不自由な方に対して、朗読をするボランティアの方が利用したりするような部屋になります。当然朗読は声を出しますので、ほかの方がいらっしやらないような部屋に、一度こちらの方に移っていただいて、ここで朗読のサービスを行うというようなことです。次お願いします。これは先ほど言いました書店でジュンクドウ書店が、図書館のフロアの下に隣接ではないのですけれども、下にあります。はい次お願いします。これは子どもさん用のお話の部屋です。ちゃんと扉は閉まって、中で子どもさんがちょっと騒いでも泣いても、ほかの人には、音漏れがしないような形になっています。なおかつ窓があって、閉鎖空間にはならないような心遣いもされています。これはインターネットを使った閲覧コーナーで本の検索ですとか、そういうようないろいろな内容を見られるというような、あとは電子化された図書資料ですとか、過去の資料が閲覧できるという、そういう内容などになります。次お願いします。これ最初ですね。はい。一旦ここでまた区切らせていただきたいと思えます。何かお話しなどございますでしょうか。ある方はお願いいたします。

橋本委員

スライドの中にもあったのですけれども、コロナが拡大してから後の写真だと思うのですけれども、書籍の消毒のものがあったと思います。ただ全体を見させていただいたときには、そのほかの部分っていうのは、それほど対コロナの状況にはなっていないかなというふうには、見受けられたのですけれども、実際

に今こういうような状況になっていて、今後、福生西口の方で、再編開発をしていくという中で、コロナ有りという形での対応に、なっていくのかというのをちょっと教えていただきたいのですけれども。

大村主幹

はい。現在建物の整備に関しては、国の方から、建築基準法の関係ですとか、いわゆる建物をこうしなさいというのは、特にそういう指針等も示されてはおりません。どちらかといいますと対コロナについては、施設の運用の方で対応するべきなのかなと考えております。この建物の建築竣工が令和8年ですので、今から約6年後ぐらいになることから、私の、これは個人的な希望ですけども、そのころにはワクチンも薬もできていて、通常の生活に戻っていればなど。もしそれがかなわなかった場合には、当然、今行っている、いわゆるスクリーンの設置ですとか、ある程度の距離感を持った施設の配置ですとか、そういうことは当然、入れていきながら、整備をする必要があると思っております。

村木委員

これを今見てですね、これはワンフロア全部図書館とかの関係のですか、その本屋さんは下って言ってきましたけど、ワンフロアですよ学習室とか。自分が何か勉強というか、スペースがとれて、要はちょっと福生とちょっと違いますよね。考え方としてはね。はいわかりました。

北島委員

福生高校の、あそこの生徒さんと意見交換したとき、ぜひ、学習スペース、カフェと併設してほしいという御意見が結構あったので、入れていいなあって思いましたので、そういったのをちょっと描きながら見ていました。ぜひ実現してほしいなと思いました。

中出委員

もしこの施設の利用方針とかそういったところで、もし御存じであれば教えていただきたいんですけど、特に仕切られたこういった学習室ではなくて、今の書庫のところにあったフリーの学習のところなんですけれども、空いたところの何か利用のルールです、例えば1人何時間までですとか、何かそういったルールというものが決められているのかどうかというのもしわかたら、教えていただきたいなというふうに思います。というのはやっぱり、今こちらに施設ができるとどうしても特定の人が長時間に居座ってしまうとか、なかなかやっぱり使いたい人が行ったときにはいつも埋まっているみたいな感じになってしまうと、それはそれでまたどうなのかなっていうところがありますので、多分恐らくお願いベースぐらいしかできないのかなと思うんですけど、そういったところの何か使用のお願いみたいなものが決められているのであれば、ちょっと教えていただければなど。

大村主幹

私が行ったときにはですね、特にそのような規制は、表示等はされておりました。ただ学習室については、あらかじめ、自分の図書カードなりを持って予約をして入ることになっておりました。それ以外は空いているところを、それぞれが目的に応じて、使っているというようなことでございます。ただやはり、飲み物等については、キャップができる、蓋ができる飲み物だけは、飲んでいいみたいな形

になっていましたけど、それ以外のものについては、一切持ち込み飲食はできないような形になってたと記憶しております。

坪井委員

学習スペースとか、本を閲覧するスペースについては、図書館協議会の方でもいろいろと意見が出ているところでございまして、長時間いられるスペースに限っては、何らかのお金など取っても構わないのではないのでしょうか。公共施設は、いつも無料だよっていう考えはもうなくてもいいのではないかなというような意見もありました。なので、武蔵野プレイスなどはいつも予約の席はほぼいっぱいだしなので、予約をどんどん入れられる人はずっと使えるけど、そのほかの予約がなかなか入れられない人は使えないみたいなこともちょっとあるようなこともお聞きしました。少しお金を取って、ちょっと、いろんな人が使えるような感じにするのも一つの方法なのかなというのが図書館協議会からの意見の一つです。

森田委員

ちょっと原点に帰って。私ども中央図書館側があるもので、大変便利に利用させていただいてそれなりの機能があるし、今の明石市のほどでなくてもね、それなりに十分な機能を果たしていると思います。これを西口でやった場合に、そういう図書館的なものを併設するという前提の話ですよ。向こうの中央図書館は、当然そこまではどういうふうに活用するかっていうのは未定だろうというし、また、並行してやるんだろうと思うんですけど。どの程度までここをね、充実させるかということ大きなポイントになるのかなと思うんですよ。あそこはあそこですばらしい。場所もいいですからね。その辺のことも考えてないといけません。それと、外国人と共生という絡み、これはちょっと後にしましょうかね。はい。

大村主幹

はい、今おっしゃられたような図書館の規模感なのですが、中央図書館自体はですね、今のところ市の方針としては、あそこはそのまま存続するという形に方針はなっております。それで西口に接する図書館は、あと図書館としての機能は当然大事なのですが、やはり今までの図書館然たるものから少し未来を見据えた形というのですかね、新たな方向性を少し模索していきたいということと、やはり今おっしゃったような立地の特性を生かして、もうちょっとこう、いろんな人がカジュアルに利用できるような、そういう図書館にしていきたいと思っています。当然、これからは、スマートフォンでいけば5Gですとか、いろいろな新しい多世代の機能とかも入っていますので、そういうものも見据えた機能を備えた、図書館にしていきたいなど。分館のわかたけ会館、あれよりは大きいものというのですかね。あれとの中間ぐらい。それぐらいの、規模感で今のところは、模索しているところです。

(塩尻スライド)

大村主幹

公共施設ですけれども、総ガラス張りというのですか、大通りに面して、歩道プラスセットバックがあって、広い歩道と、その間に少し街路樹なんかもありまして、まちのシンボリックな、形になっている歩道橋があるのですが、これはこちらの隣接に公設の駐車場があって、そこから入ってくるようになっております。次お願いします。これが1階の設えですね、ちょっとウッドデッキみたいな感じの歩道と一緒に

になっております。次お願いします。その外観です、少し緑があつて。はい次お願いします。これは隣接する商業施設です。隣に公共の駐車場があつて手前に図書館があるという、そういうような形です。こちらは実は壁なんです。実は図書の写真なんです。写真をこういうふうにつけて、ただのいわゆる塗り壁にしないで、図書館たるこういう外観を重んじたということで何か写真を張られていました。次お願いします。これが1階の図書館のすぐ外側のテラス席です。ここでやはり中にお店が入つてまして、食べ物ですとか飲み物を買つて、ここでくつろぎながらおしゃべりしたり、何か友達との打ち合わせをしたりとか、こういうようなスペースになっています。次お願いします。これは、下に入ったところすぐにコインロッカーがありまして、例えば、学生さんなんか3教科4教科の勉強をしたいと思つて、大きい荷物持つてくるとそれをずっと持ち歩かなければならなくて大変なので、一旦ここに預けて、必要なものだけ持つて、2階のほうに上がつていくというような使い方ができるコインロッカーがあります。はい、お願いします。これは内装です。吹き抜けになつてしまつて、憩いの空間というんですか、テーブルや椅子が多く置かれています。次お願いします。ここで勉強をしたりくつろいでいるような、こういうような状況です。次お願いします。これが自動貸出機です。本を自動で借りて、職員の手を使わないで、自分のカードを入れて、本を乗せて、読み取らせて、それで借りていくというような、そういうようなシステムになっています。次お願いします。これはフリースペースですけれども、これはやはり自分のお気に入りの本を読み見ながら、ちょっとくつろげる時間を持つていただいて。前のところは全面ガラス張り、外の景色を見ながら、北アルプスの山々を見ながらです。ここで少しくつろぎの時間を過ごせるという形になっております。次お願いします。これは一般の書架です。こちら使用事例が、やはり先ほどと同じようなのですけれども、ワインが有名です。地元のものに特化した本を揃へまして、ここで地元の研究ですとか地場産業の研究をしたりする学生さんなんか使つたりしてということです。次お願いします。これはおもしろいのですけれども、これクッションみたいなソファなんです。こういうのが館内の至るところに置いてありまして、今座つての方がいますけれども、こういうちょっとした空間で腰をかけて読書をするということもできるということで、これはちょっと驚きましたけど、次お願いします。これがですね、調べ物コーナーと、あとのインキュベーションですかね、何かそこで、雇用をつくつて仕事をちょっと立ち上げたいみたいなど、調べ物をするような、そういうようなコーナーになっています。ここはどちらかというと、地域の雇用ですとか産業活性の一役を担うようなコーナーとして使つております。次お願いします。これは先ほど言いましたけどセンターの図書館の1階のセンター空間になります。ここにいろいろ座つてですね、話をしたりして。はい次お願いします。これはですね1階の児童のフロアです。右側を見ていただくとわかるのですけれども、お子さんの高さに合わせたカウンターの高さですか。今これお子さん、多分100センチもないぐらいのお子さんだと思うのですが、身長に合わせたフロアになつてしまつて、当然この辺のイスやテーブルも全て小さいものになつてまいす。カウンターも小さくて。隣に、やはり子どもの一時預かりのコーナーがございます。一時預かりをされているお子さんももちろんいましたし、お母さんと一緒にこちらで本を読んでいるお子さんもいました。次お願いします。これなんかはちょっと子どもさんがいたので、中は写さないでくださいねということだったんで、なるべくなかなかこう全景が撮れてないのですけれども、先ほどのカウンターの隣にこういう子どもさんを、預かつてくれるような、そういう施設があるんです。ですので、お父さんお母さんが何かこの施設で活動するときに、ここにお子さんを預けて、館内で活動するような、そういうようなことも行つております。次お願いします。これは普通のフロアです。全体的なフロアなんですけれども、これも子

どもさんの使っているような、フロアの、もうちょっと引いた写真だと思います。次お願いします。これです。ね建物の2階部分になります。時間貸しの、これ有料だったかな、ちょっと有料か無料だとかちょっとすいません、記憶ないのですけれども、これ時間貸しのスペースです。ここにはですね、親子連れで来て、親子でこの時間と空間を、2時間が一つの単位だったと思ったのですけれども、2時間単位ぐらいで貸切るということで、ここで親子で本を読んだり、何か遊んだりということ。施設の中で一番人気があるところで、子どもの居場所と親子の居場所ということ、非常にここは人気が高いということ。次お願いします。これはちょっと、福生ではなかなかないんですが、地元の企業さん、エプソンですね。プリンターのエプソンの会社がありまして、その3Dプリンターですね。ここで工作教室をやるのに、3Dプリンターを使って、地元のそういう企業の力を借りながら、起業、いわゆる業を起す練習をしたり、学生たちに新たなこういう体験をさせて、学習の発展の効果につなげていきたいというふうなことでコーナーを設けておりました。次お願いします。こちらは市民活動スペースです。こちらが今福生で言いますと駅前、輝き市民サポートセンターみたいなところで、いわゆるサークルですとか、そういうようなところの集まりのフロアになっています。次お願いします。これはサークルのいわゆるチラシですね。次お願いします。先ほどのサークルの集まる部屋がこちらなんですが、その手前にも、フリーのこういうテーブルや椅子ありまして、これも学生さんたちが勉強していました。お話を聞いたら信州大学の、松本校舎の生徒さんたちだと言っていました。はい次お願いします。これもそうです。その中でこのようにふんだんにフリースペースがあって、至るところですね、勉強しているというような、ちょうどこれ夏休みの後半だったんで、皆さん宿題の追い上げもあったのかなと思うのですけれども、ずいぶん学習をされていました。次お願いします。ここは会議室です。1時間単位で、有料で貸している会議室です。基本的に、先ほど、委員がおっしゃいましたが、有料で使う部分というのがあって、あまり、無料無料っていうようなことにはしていないみたいですね。はい次お願いします。これは1階フロアを撮ったものですね。やはり、いろいろな方が勉強をしたり、こういうフリーなスペースがあって、各活動が活発にされています。次お願いします。先ほどの明石市にもありましたがやはりこういうような、隣にこういう学習をしたり調べる空間があることで、すごく書架との連携ってのが図れている。こういうような活動ができるということで、こういうものがないと一々資料を持って別の部屋に移動したり、自分の家に持っていかなきゃいけないということで、なかなかそういう、興味の連続性が損なわれてしまうのもあるのかなと、それは私の感想なのですけれども。はい次お願いします。こんな形でですね、皆さん勉強されているような。これもそうですね。こういうような資料のわきですとか、ちょっとした空いた空間に椅子やテーブルがいっぱい置いてありまして、居場所づくりができています。次お願いします。これ、上から、吹き抜けを上から見た図ですね。次お願いします。これも同じような形です。次お願いします。これもですね。これ1階部分なのですがやはり机ですか、こういうのが、本当に至るところにあります。これガラス張りになっていて、ここはですね、有料の会議室です。ガラス張りになっています。何をこの中でやっているか見えてしまう。プライバシーを守りたい時はブラインドは全面ありますので、全面ブラインド閉じて、中で何をしているか分からないようにできるのですが、これも有料の貸し出しスペース。次お願いします。これもそうですね。こういうブラインドを閉じた状態ですとこういう形で、中で何やっているのかわからない。次お願いします。これが250席程度の、収納できる、平場になるフロアですね。大体これが200から300人程度で使える、ちょっとしたイベントですとか、講演会なんかで使えるような、そういうフロアです。はい次お願いします。これも同じフロアです。ここは、いわゆる司会者席みたいな、

先ほどの折り畳みのいすはこちら側に全部収納しております。次お願いします。これはバックヤードですね、机ですとか椅子がちょっと収納してあって必要なときに後から出していくという。次お願いします。先ほどと同じようなフリースペースで、学生さんや子どもたちが勉強していると。こんな形でちょっと写真撮らせてもらったのですが。ただこういう壁面のところにテーブルとイスだけ置いてあるのですね。そうすると自然に子どもたちが集まってきて、自分たちで参考書広げて、ジュース飲みながら勉強しているという。こういうような、フリーな空間が非常にたくさんあります。至るところに見ることができる。次お願いします。これもまたそうですね。壁付けなのですけれども。こういう形で、自分たちで持ってきて勉強できるという。次お願いします。ちょっと上の、ちょっと飛ばしてください。これはですね調理教室をやるような、調理実習室になります。食育も兼ねて、食育教室ということで、お子さんを一緒に連れて、例えば離乳食を作ったりですとか、子どものそういう食べやすいようなアレルギー食の教室などをやったりする。調理室で作って、そこでは子どもさんと一緒に食べるという、そういうこともやって。次お願いします。これ、信州大の大学生ですね。ここの中会議室なのですけれども、ここを使ってこの学生主体のイベントをやるということで、企画をちょっとみんなで、土間に座り込んで考えていたのですが、写真撮っていいですかと聞いたらいいいですよということだったので、撮らせてもらいました。はい次お願いします。先ほど申し上げましたけれども、塩尻はワインがすごく特産で、このフロアだけ、公共施設なのですけれども、ここの部屋は、酒を飲んでいいということです。ここで何かイベントをやったときには、お酒飲んでいいらしいです。公共施設で酒飲んでなんていうのはちょっと不謹慎じゃないかなと思われると思うのですが。地場産業を活性化していこうということで、こういうとこですね。福生も酒蔵さんなどもありますので、そういうようなこともひとつこう考えられるのではないかと。今御紹介したのが塩尻市の駅前にある「えんぱーく」というとこです。ここもさまざまな複合用途が重なっている。非常にいい施設だと思っております。何か御質問ですとか、御意見ありましたらお願いいたします。

村木委員

これは8月にとられた写真ですよ。去年の8月、なるほど。お年寄りがあんまり写ってない感じがして。それは、何でかという、つまり何かすごく暑い日で、老人は昼間出てこないような日だったとか、逆にこの施設が何かちょっと老人には余り向かないようなポイントがひょっとしてあって、そうなっているのか。ちょっと気になっちゃったのですが。

大村主幹

行った日はですね、30度前後の非常に暑い日でした。そのため、高齢者の方がたまたまあまり写っていなかった。写った方、どちらかという、私が子どもの居場所という視点で、ちょっと写真を撮ったんだというのもあるんですけども。高齢者の方がいらっしゃらなかったわけではなくて、1階のやはり先ほど最初に言いました、北アルプスの見えるようなテラス席ですとかそういうところには高齢の方もいらっしゃいましたし、決して若者ばかり使えということではなくて、全世代型、の施設だとは感じました。はい。

(茅野市スライド)

大村主幹

引き続き説明をさせていただきます。これは同じくです長野県ですね。「えんぱーく」の前の日に行きました。これは茅野市ですね、市の駅前の市民ホールになります。駅のロータリーがございまして、すぐ隣にこういうゲートがございまして。ゲートの奥にですね、市民会館ですけど、このゲートの中にも小さいイベントホールがあって、ここを上を上がっていくと駅に直結していたり、図書館にそのまま降りていけるような、そういうつくりになっております。次お願いします。これが今、ゲートの上の門からとった写真なのですけれど、このガラス張りのところ、ございますよね。これ全部図書館です。この図書館に沿ってJRの中央本線が走ってまして、これをもうちょっと先へ行くと諏訪の方に行くというような形になります。はい次お願いします。これはゲートを左から入ってすぐのところなのですけれども、ここにステージがございまして、これ市民のちょっとした発表の場だったり、そういうようなことで活用されるといことで、たまたまこの日はちょっと、利用している方がいらっしやらなかったみたいなんですけれども、これいろいろなイベントをやったりとかしているみたいです。この階段は上に行くと、JRの連絡通路とつながっております。次お願いします。これは連絡通路が上ってきて上からステージの客席のほうを見た感じですね。はい次お願いします。上に上がってきまして長野県南信州の山々が少し見えるというふうな形です。次お願いします。こちらの右側から今のゲート上がってきましてこれを奥に行くと図書館です。これを左に行くとJRの駅になります。これは駅と直結した、公共施設の図書館と、こちら行くとホールになります。じゃあ次お願いします。はい、これが図書館に入ります。この右側に図書コーナー、スタジオがあったり、市民活動コーナーなんかがあったりします。次お願いします。この図書もですね、貸し出しだけではなくて一部販売の方もございまして、貸すだけではなくて販売も併用しているというふうな。先ほどから申し上げておりますけれども明石市なども本をすぐ買っていただけるみたいな、そういう雑誌系なんですけれども、ここもそういうような形になっていました。次お願いします。これは図書館をちょうどこの手前が東京で向こうが諏訪側なのですけれども、図書が全部並んでるような形になります。はい次お願いします。これは並んでいる。書架ですね。ずっと通路沿いにこういう書架が並んでるみたいな、全面ガラス張りです、いろいろな明るいスペースになっていました。はい次お願いします。ずっと図書館から降りてきまして、いわゆるスタジオですとか事務所ですとかが入っています。この丸いのですが、これちょっと変わったカプセルみたいなものはトイレになります。次、活動コーナーですとかそういうのがあって自販機があってやはりこういうクッションがあったりですね、スペースがあって、自由に本を見たり、居場所になったりするような形です。次どうぞ。これがスタジオです。防音スタジオになってまして、この中で楽器演奏ですとか、吹奏楽の練習ですとか、合唱やったりですとか、そういうような音の出るような活動はこの中でやると。次お願いします。これは市民活動のチラシとかですね。市民活動ができるような机や椅子があります。はい次どうぞ。これはいわゆるホールです。マルチホールっていう我々が想定している施設の中で言っているものでございまして、非常に広いホール、こういう形で、レイアウト自由に使っていくという、またあとちょっと写真がございまして、次お願いします。例えばこういう講演などするのにこういう席を配置して、ホールでイベント、例えば成人式ですとか、敬老大会ですとかそういうイベントです。こういうような形で。実は、こういうふうに分解できるのです、これ。今のホールは分解できて、何もこういうイベントやらないときには、平土間で、このホールを違う用途で活用できると。次お願いします。こういう形にもなって、例えば中で何かこう講演会でちょっと著名な人を呼んで、いろいろ催し物をしたり、こういうようなホールも。はい次お願いします。移動はちょっと大変ですけれども、これは人海戦術でやらなきゃいけない。ですので、余り大きなイベント

が続いてしまいますと、準備に時間がかかっちゃうので、この椅子を移動する時間も貸し出し時間に入りますので、これは非常に大変ですよということは言うておりました。次どうぞ。これはホールの外側が出口とかですねホワイエっていうところですけども、これにやっぱり場所がありまして、ここで座って、人がたまってしゃべっているような、はい。これはホールで、成人式の風景ですけども、ホールの外側に、ホワイエに、若者が集まっているようなところがございます。次お願いします。今若者が集まっているのはここですけども、ここにですね、キッチンが普段は閉じてあるキッチンがありまして、ここでいわゆる賄いができるようですね。ですので、ここで成人式が終わった後に若者が出てきて、福生では思い出の給食とかやっていますけれども、そういうようなちょっとした食べ物読み物を提供するようなサービスができるような施設も元からもつくったのですね。はい次お願いします。これはちょっと蓋を上げて、ちょっと見せてもらったので、余り全部開けるのはまずいかなと思って少しだけ開けたのでよく映ってないですね。次お願いします。こんな感じですね、ここが流し台とかテーブルになっていて、ここで賄いですね。ですから、よそから、例えばデリバリーで何かを運んできてもらって、ここで仕分けをして、若者や参加者の方々に提供するような、そういうようなことに使っていると言っていました。次に中ホールの入り口、これ 300 人程度の規模なんですけれども、ここは入り口になっています。こちらは 300 人程度の方ですね、これが今の福生で言うところの市民会館の小ホールに当たるところですけども、300 人程度で、こういう半円形のホールになっていて、コンサートをやったり、舞台活動やったり、いろいろなそういう市民の発表の場になるという、そういうような形になってます。次お願いします。天井はこういう格子天井で、ちょっと普通の部屋とは違うなという感じですね。次お願いします。今舞台の上に上がらせていただいて、舞台から客席を見ている形ですけども。次お願いします。実はこれ黒い窓の中ですけど、車椅子に乗った方がそのままここに入ってこられて、この窓の中から、音楽鑑賞できるようになっています。当然スピーカー直結になっていますので、ガラス張りですけども、スピーカーでちゃんと音は拾えて、自分の目で見ながら、音も聞こえるというものです。次お願いします。実はここはですね、車椅子でも入れますが、お子さんとお母さんとが、親子で鑑賞できるというスペースでもあります。やはりお子さんがずっと騒いだりしたときに周りの方のちょっと迷惑になるということの観点から、どうしてもそういう恐れのある方は、初めからこちらにお子さん連れて入ってお子さんを抱っこしたり、例えば授乳をしながらコンサート見たり演劇を見たりしているということで、最初からそういうことを想定して、しつらえがなされております。次どうぞ。これは機械室の操作室です。はいどうぞ。これは楽屋ですね。演奏者ですとかそういう方がいるような楽屋です。次どうぞ。楽屋の入り口になります。次どうぞ。これはですね、ホールになります。今、小ホールの舞台と大体同じぐらいの広さのリハーサル室ですね。向こうに鏡がありますけども、ダンスの練習ですとか演劇の練習ですとか、自分の姿を見ながら、ここで、練習をするわけで、幅や寸法もみんな同じですので、例えば動いたとき何歩で舞台の袖まで行くとかそういうのも全部測れるようになっているというふうになっております。次どうぞ。こんな感じですね。普段はここを使わないときには地元の商工会ですとかそういうところに開放して、物産展を行ったり、いろいろな会合をしてですね、立食パーティーをしたりして。どうぞ。こんな感じですね、はいどうぞ。これがホールの外側の事務所の外側です。こちらの方でも全て指定管理者の委託で、市の直接の運営ではございません。市が指定管理に委託して運営します。横は喫茶店ですね。食事も提供しています。このとき私は食べなかったですけど。ということで、こちらが、茅野市の駅前の市民、ホールというのですか、公共施設になります。何か御意見のある方お願いいたします。

北島委員

茅野市の場合は、大ホールと小ホールがあるってことなのですか。収容人数的にはどれぐらいですかね。可動式で。上に固定の部分。はい。例えばそこを、フリーのフロアにすると。

大村主幹

大ホールは収容 780 席です。平土間やオーケストラピットの使用もできます。また平土間はもっと人数多く入れると思います。小ホールはステージ常設です。300 人です。

北島委員

はい、ありがとうございます。

大村主幹

ほかにございますか。はいどうぞ。

坪井委員

ちょっと確認ですけど、さっきの門のところであって、あちら正門の 1 番最初のところ。左手にある、その内訳は。

大村主幹

これですね。これは、ほんとに 10 人とかというふうにいわれるバンドの方が、ちょっとミニコンサートやるよみたいなものです。ですので、小さいこういうホールと、先ほど中ホールみたいな固定席の 300 人ぐらいのものと、800 人弱の移動式のこういう大きいホールというのが 3 種類ぐらいあるんですね。

坪井委員

あともう 1 個。図書館部分が、コースロープが斜めになっていたと思うのですが。図書館がこうなったんだという感想です。

大村主幹

はい、厳密に申し上げますと、こちらは図書館ではないということなんです。図書館法の図書館ではない。図書館に指定はしてないと言うんですよ。貸し出しはしてます。ただその図書館法上の図書にしないというようなことですね。また図書館法をかけると、かなり法規制が大きくなってしまいますので、あえてここはいわゆる施設の雑誌を置いているというような、そういうような位置づけにしております。ですのでいろんな本があるのですけれども。そういう感じです。

坪井委員

一般の書物はあんまりない。

大村主幹

結構ありまして、雑誌もありましたし、一般の書物もありましたし、ですので、あえてそれを図書館然としたものはそこには設置しないということで、そういうような形でやっていると伺っています。

森田委員

いいですか。茅野市の場合もほんとにもう贅沢というかあらゆるところを考えて、もう事細かく配慮した施設だと思うのですよ。非常に印象的だったのは 200 数十人の小ホールの中の、障害者の方、あるいは、幼児、これ確かにね。市民会館から見ても、ちょっと、そういう障害のある方ですね。障害のある方とかね、幼児はなかなかね。あの施設はすばらしい。初めて見たんですけどね。これはもう、小ホールやる場合ぜひああいうのを取り入れたらいいと思いますよ。

大村主幹

ありがとうございます。はい。貴重な御意見ありがとうございます。はいどうぞ。

村木委員

はい、ちょっと、今、茅野市の場合、駅前でホールを主体として、ちょっと豪華過ぎるっていうか、参考として見ていたのだけれど、やっぱり図書館、今先ほど言われましたけど市図書館とか、駅前の施設としてはちょっと。今は参考に写真だけ見たから、ホールとかこういう、何ていうのでも、コンセプトとかね、ああいうイベントをやるようなものとしては必要です。福生として参考として見たのだけれど、ちょっといろんなものが豪華過ぎるねっていうような感じがちょっとしました。福生としてやるには、先ほど言われましたけれどもあれもいいのだけれど、あれが福生としてできるのかなっていうのもちょっと感じながら見ていたのですけれど。ちょっと参考としては、理想としてはいいけど、福生に取り入れてほしいなというのはあるけどちょっと無理かなっていうような、ちょっと見方をしておりました。はい。以上です。

大村主幹

ありがとうございます。我々といましては本当にいいところ取りをしたいなと思っているんですね。やはり、最新のものをつくるわけですから、皆さんの、英知が詰まっている施設を、いいところ取りしていいものをつくりたいなあとと思っています。ですので、お金の許す限り空間の許す限り、いいものを皆さんにお見せしたいし、ぜひ、私も1市民として、そういうのができたらいいなと思っています。ですので、これからですね具体的な設計に入ってきますが、こういうやっぱりいいものを皆さんに見ていただいて、それであるべくそういうものに理想に近づけていくということは非常に大事なかなということで、今回ちょっと御紹介をさせていただいている趣旨もでございますので、それはちょっと御理解いただければと思います。はい。はい、よろしいですか。

(大和市スライド)

大村主幹

時間もありますから、この施設で一応最後にしたいと思うのですけれども。これが大和市のシリウスと

いう施設です。これが今まで御紹介した中では、1番新しい施設になると思います。非常に市民の入り込み数も多くて、非常に人気のある施設でございます、実はですねこの大和市さんというのは、先ほど御紹介した「えんパーク」を参考につくられた施設ですね。非常にすばらしい施設だと思います。これもかなり規模感があるので、先ほど委員がおっしゃったように参考にできる部分とできない部分はもちろんあるのですが、先進的な事例としてちょっと御紹介をさせていただきたいなと思っています。これまずですね、1階入ったところに書架、こんな形で、書架然としたものではなくて、どっちかという、棚の上に、今ウケてますよみたいな、お勧めですよみたいな本を置いてあります。次どうぞ。こちらの入り口から入ってきてすぐにこういうフロアになっているんですね。ちょっと贅沢なフロアの使い方をしているのですが、空間をこういうふうにするんですね、少し広めに使いまして、ここに、テーマ別に絵本が並んでいます。真ん中に大きな吹き抜けがございます、1番奥側にですね、ここも、スターバックスがありました。はい。次お願いします。こちらが2階部分ですね。それぞれの空間、フロアに書架がそれぞれテーマごとに並べられています。これはどちらかという、完全な図書のフロアですので、いろいろ分類別に分けられてるのですが、書架の横ですぐ学習できるような施設があります。今日いくつか事例見ていただきましたけど、やはりこういうものが今1番トレンドなのかなという形ですね。1番上に市役所のちょっとした派出みたいのはあるのですが、ちょっとした行政手続をここでやるような形になっています。次どうぞ。これは、子育てのフロアですね、これキッズフロアですけど、子どもがちょっと遊んで一時預かりできるような、そういうフロアになっております。次どうぞ。これは自分で調べたり物をやったりするような、いろいろ作業するような、スペースです。DVDシアターですね。はい次どうぞ。ここが2階だったかな。2階をフリースペースで、いわゆる書架があって、やはりこういうふうにもう、人が自由に座っているような、そういうような空間になっております。これ健康コーナーがありまして、ここで健康相談ですとか食事教室ですが講演ですとかそういうのを聞きながら、その隣にやはり健康に即した本というのですかね、この健康テーマにしたエリアは、健康に特化した本を並べるというようなことで、本をテーマ別並べるのではなくて、施設のテーマごとに本を配置するっていうような、そういうような形をとっております。次どうぞ。ポーネルンドっていうですね、子育てというような、育児知育をメインとした会社ですけど、こういうような子どもの一時預かり施設というんですか、子ども広場を運営しています。今ですね。福生市も中央体育館の隣に子育て応援館ありますけども、1階にキッズパークあるのですが、とても狭いキッズパークで、ただやはり利用の頻度も結構高くて、かなりこう、密な状態で活動されてるということなので、少しこういうような、子どもさんたちが、屋根がついてますんで天気を気にしないで遊べるような、そういうような空間もあってはいいんじゃないのかなと思っております。次お願いします。こういうような空間があると非常に便利です。はい。実はここ、お金をいただいているんですね。もちろんフリーで来れるスペースもあるんですけど、例えば、子どもさんを連れた親御さんが入れるスペースもあるんですけど、ここは子どもさん1人1時間100円、お父さんお母さんは時間300円みたいな形で、入場して有料で遊ぶスペースですけども、やはり雨が降ったときなんか全然こういう広いところで遊べないというようなことがありますので、非常にニーズが高いというようなものです。次どうぞ。これはそういうような教室をやってくれたりですとか、いろいろ発表会をやったりして、市民を巻き込んで活動するというようなこともやっているみたいですね。どうぞ。これはフロア内です。次お願いします。これは郷土歴史コーナーということでこれ図書コーナーの隣にですね、大和市の歴史を知るみたいなコーナーですね。福生でいうと郷土資料室が、あるのですが、それ

と、郷土資料室はどちらかというと博物館的な感じですが、これは郷土にまつわる本ですとか、資料などいろいろなものは陳列されています。やはりどこの自治体もそうですけれど、自分の郷土愛ですかね、そういうのを育むために、こういうコーナーを大事にしているみたいですね。はい次お願いします。同じような内容の郷土のコーナーですね。はい次お願いします。はい。こちらがですねこれもフリーのスペースで先ほどの健康のフロアですかね。これ健康教室をやったり、机をどけて体操やったりですとか、あとここで食育教室やったりですとか、そういうふうなこともやっているというふうに言っていました。はい、次いきましょう。これが施設の4階から5階ですけど、これ全くのフリースペースです。ここにお弁当を持ってきてサークルでお話ししてもいいよとか、ここは声を出しても全然いいところで、大騒ぎしなければお酒飲んでもいいですけども、ここに市民の方がふらっと来て、ここでみんなで弁当とか広げて、今度の日曜何かしようとか、この前はサークル活動だったよねとか、そういうような話をしていると。これ完全フリースペースです。これは非常にいいところだと思います。はい次お願いします。ここは有料の会議室、これ先ほどの塩尻えんぱーくにもあったと思いますが、全面ガラス張りで、時間貸しの会議室1時間200円から300円ぐらいで、人数で割れば、1人何十円かで借りられるというふうなですね。はい次お願いします。これはコインロッカーですね。これは団体に貸すためのコインロッカー。次お願いします。これはスタジオですね、いわゆるこれも、先ほどありましたけど、リハーサルですとか、このガラス張りで、何も無いときにはこのガラスの鏡を閉じて、ちょっとした講演会や、学習会あたりができるものですね。はい次お願いします。これは2階から3階の図書館のフリースペースのど真ん中に木を植えて、ちょっと今の福生にはないような斬新な発想ですけども、こういうような感じですね。これは、書架ですね。閉架の図書をですね、閉まっておくところの、機械ですけども全部こう自動で管理されているっていうのはどこに何が入っているかっていうのも、全部これで検索するみたいな形です。はい、次。これは先ほどのフリースペース、これは非常にやっぱり大事で、いろんな人がいて、休憩されたり本を読んだりして、次お願いします。これは子どもさんの部屋です、お話の部屋とか、こういうちょっとカラフルになっていまして、子どもの興味を引くような内容にもなっております。これ、たまたま使ってなかったの撮らせてもらいました、次お願いします。これが2階部分ですね。これ全部有料席です。この手前の入り口にゲートがありまして、ここは全部有料で貸し出しです。これ時間貸しの席ですので、自分専用の時間が、専用の時間とスペースが取れるというような、そういうような内容です。次お願いします。これは貸出機のゲートですね、こちらでチケットを買って、このゲートにチケットを入れるとこのゲートが開いて入れるっていう。次お願いします。これ貸出機の自販機というのですかね、チケット販売ですね。次お願いします。これもそうですね。チケット販売です。はい次。もうちょっと近くの写真です。2時間100円とか、そんな感じですかね。そうですね。それだけの決して高額ではないと思うのですけれども、それぐらいのお金を払って、自分専用の席を確保できて、静かな環境で、学習なり調べ物なり自分の趣味なりができるということで、ここは、そういうような空間になっております。次お願いします。これは本の自動貸出機ですね。自分の番号入れて、本置くと貸し出しができるので、これがですね実はフロアの至るところにあるんですね。1カ所だけではなくて、例えばさっきの健康コーナーにもこれありますし、子どものコーナーにもありますし、例えば歴史のコーナーにもあります。ですので、いちいち本を持ってカウンターに行かなくても、ここに自分のカードを入れて、番号を入れて本を置けば、誰でもその場から借りていけるというような、そういうような仕組みになっています。はいどうぞ。自動返却ですね。ここに書か借りた本を入れると、奥にベルコン、ベルトコンベヤーみたいな、バーコードを読み取って、全部分

類ごとに仕分けをしていって、仕分けられた図書を元のところに戻すというような、非常に省力化されている、そういうようなシステムですね。はい次お願いします。これはキッチンですね。先ほど塩尻とかにもありましたけど、キッチンですね。はい次。ここがですね3階、4階だったかな。3階の利用施設。ここは静かに本を読みたい人や勉強したい人が、ここはフリースペースになっていますので、いわゆる、早いもの勝ちじゃないんですけども、そういう形で、これは静かに本を読む人はこちらに来てくださっていいところですよ。はい次お願いします。これは先ほどの返却システムですね。はい、お願いします。これは子どもの一時預かりでして、例えばお父さん、お母さんが、この施設の中に、大ホールがあるんですけども、そこで例えばコンサートを観ているときに、子どもさんを一時預かりしていただいているような、そういうようなところは1時間くらいでお子さんを預かってくれるよみたいな、あと図書館にちょっと2時間いたいから、ちょっとあなたここで2時間預かってもらってみたいみたいな形で子どもさんここで預かってもらえるような、そういうスペースですね。はい。これは最初に戻りまして、いわゆる、ギャラリーですか、市民ギャラリーっていうんですかね、自分たちでつくった作品を、展示する発表会の場を持つ場所ですとか、あとは200人ぐらいの、茅野市や塩尻にもありましたが、折り畳み式のいすの平土間の中ホールですとか、あと100人規模の固定いす式のいわゆる福生市で言うところの大ホールですかね、そういうのも、ここには一緒に併設されております。年間でかなりの人数の方が、1000万ぐらいはあつという間に、突破しちゃったんですかね。福生の七夕が4日間で40万人弱ですから、2年で500万ですから、相当の数の方が訪れている施設というような形になります。今のシリウスについて何か御意見とか、ございますでしょうか。

森田委員

例えばシリウスをそのままここに持ってくることは可能ですか、広さ的にとか。

大村主幹

広さ的にはちょっと厳しいです。その辺少し取捨選択をして、福生に必要な機能ですとか、今福生で充足してない機能を、入れるっていう、そういう形にするのが1番いいところですよ。あと何か御意見等ございますでしょうか。

坪井委員

はい、いいですか。図書館を各所に分けるっていう、最初に説明いただいたというイメージがすごくはなかったのですが、画像見てわかりました。こういう感じになるのか。ただちょっと図書館協議会の中で図書館が1カ所にならなくてどういうことなんだろうっていう疑問がずっとあったのですが、こういう写真を見せていただくと、こういうのもありなのかなとは私は思います。あともう1点すみません、今のことなのですが、先ほどのシリウスで、健康コーナー、健康に関する講演会をやったり、その横には、もう保健師が来て、健康相談をやっているような、そういうスペースもあるんですね。そのフロアには健康関係の図書が並んでいるという形なので、図書館の分類法によって、ここはこうだっていうようなことではなくて、そのフロアの特性に合わせた図書の配置をしているという形になるんですね。あともう1点、保育の部屋っていうのは、常設なの。

大村主幹

常設です。はい。

坪井委員

それは保育士さんの立場から施設全く全然見たことのないお子さん、急に預からみたいなのっていうのは、難しいことなのかなってちょっと思ったりしたのですけれど、もちろんプロがやるにしても、あとそれに近いとこだと、図書館行きますとって、そのままをどっかに行かれちゃったりとか、そういうのもちょっと考えちゃうなあって。心配はしてしまいます。それも、認めてはもらっしやるんですね。

大村主幹

中にいてもいなくても2時間でしたら2時間きっちりお預かりしますので、自由にしてくださいね、何かありましたら連絡つけられるようにだけはしてくださいねっていうような、そういう形にしているみたいですね。

坪井委員

はい。ありがとうございます。

大村主幹

一時預かり、一時保育っていうんですか。はい、今、ちょっと私も保育の担当者といろいろお話しをさせていただいてるのですけれども。かなり福生の保育園の中でもその一時預かりは、要望が強いということで伺っていますが。どうぞ。

高山委員

ちょっとすいません、今日は遅れてしましまして申しわけありません。保育の方の代表としましては一時預かりというのは、先ほどお話がありました何かコンサートがあったときにちょっとお預かりをしていただく、そういう考え方もいいと思うのですけれども、実際には、今現在一時保育というのを各園、福生市あります保育園が各園で担っているんですね。ただお母様方の御希望ですと、うちこの日にちょっと預かってもらいたいんだけどっていうような希望があったとしましても、保育園のほうとの兼ね合いがあって今日はちょっと行事があってちょっと無理なんだよねとか、そういうようなこともあるとお断りせざるをえない保育園もかなり出てきているっていうところもあると考えると、ある1カ所のところに一時預かり保育、保育施設っていうのがあると、お母様たちがこういう用事的时候に、例えば冠婚葬祭などで預かってもらいたいとか、そういったときに預かってもらえる施設があるんだっていう、この安心して、この福生市に住めるというところはすごく、園長会のほうでも希望しているところありまして、なかなか、もう受けてあげたくても受けてあげられないで断っているっていう御家庭も実際にはあるんですね。それを希望されているほう、お母様方も、ただいらっしやるっていうところを考えますと、一つの施設のどこ、1カ所のところに、そういった希望をすれば受け入れてくれるっていうところで、本当に初めてのお子さんでも、当然アレルギーのお子さんもありますから朝、その前には当然うちなんかも預かる前に面接なんかを簡単にさせていただいて、このお子さんの特性だったりとかちょっとお聞

きしながら、お預かりをしているというふうな状況なんですね。先ほど申し上げましたように、お母様方が安心で、そして安全であるっていうところの施設でなければいけないかなっていうところは、そこが前提で、各園、お預かりしているっていうところなんですね。なので、今回市役所のほうの保育係のほうでも、多分それを希望しているっていうところをかなり強く、話が、この間聞きましたのでね、その辺のところを、皆さんのところにもお伝えして、そういった意見も加味していただければと思っております。以上です。

大村主幹

ありがとうございます。

森田委員

私、健康づくりの会から来ていますのでね、その健康コーナー、大和市の、非常にこれぜいたくだと思うんですね。だけど、本当にこれもまた、あれば本当にいいかなと。我々いろんな学童の会とか、いろいろ出かけていたりして、いろいろやっていますけど、駅前を中心地にあるということは、なかなか来にくいひともいるかもわかりませんから、ローカルで、それぞれの地区でやったほうがいいんでしょうけど、駅前にあればちょっと寄っていかうかではそこで、今ちょっと今回、1日の広報に出ていますけど、福生体操ラジオ体操をやりますから集まっていたいて、企画していますよね。福祉センターのほうとか、そういうことを含めたり、いろんなちょっとお話を、何をするとか、人を集めるからやってくれるかなという、ちょっと心配あるにしても地味ですからね。だけど、これもまたぜいたくながらあれば素晴らしいものだろうと。思いますね。はい。以上です。

撰梅委員長

普段同席しない森ビルの方とアール・アイ・エーの方がいるので、今、我々、いろんなジャンルから来ているから、みんな要望するからものすごい盛りだくさんのものが、要望として出てるんだけど、この限られたスペースでどれだけその要望を受けられるかというのも、微妙だし、逆に盛りだくさんであるがゆえに、何かみんな中途半端で失敗してしまったというのも、何て言うのかな、専門家の過去の経験から、いわゆるなかなか我々がいろいろ頼んで、頼まれてる立場として出るのかもしないけど、いわゆる、過去の経験から、福生ってどういうふうなイメージというものをつくっていくのがふさわしいんでしょうかって、私は逆に質問したいんだけど、答えられる範囲で答えておるんだけど。じゃあ、森ビルさん、どなたか代表して、お話をさせていただいてよろしいですか。

森ビル都市企画 中原氏

すいませんちょっと代表して答えさせていただきます。今いただいた御意見というのはもうまさに、必要になってくるような機能かなというのはあれですけれども、ほかの、福生市自体が、ただ抱えてる課題に対して、答えていくってというのが一つ、大きなテーマ設定になるのかなと思っております。どういうのが課題なのかっていうところであると、やはり、人口の中でいうと、子育て世帯ってというのが流出しているというのが、まず一つ大きな課題になっておりますので、やはり、子育て世代を支援して、利用できる場所であり、かつ、子育て世代だけじゃなくてその将来を見据えたときに子どもをこうやって育ててい

くとか、例えば先ほどありましたような学習室だったりとか、家族としてここに住むのであればどういう場所であるのか、というところが想像しやすいような機能っていうのを、入れていくのがいいのではないかというふうに考えております。

また従来型の公共施設で、ただ場所を用意してあげますよっていうだけではなくて、先ほどのお話にもありましたがただ見に行くだけではなくて、活動に結びつくような運営だったりっていうところも、しっかりと、ケアしながらやっていくということを目標にしていかなければならないなというふうには考えております。ちょっとお答えになっているかどうかっていうのは。

森ビル都市企画 濱野氏

もうちょっと私のほうでもすいません、補足なんですけれども、資料の中で、今施設に関してはですね、これまでの既存の施設というものもしっかりやって、活動もされている部分もあってというところがあります。ちょっと私、よそ者という観点からすいません、いろいろと我々のほうも勉強させてもらってるんですけれども、いろいろ不採算の状況、テーマごとに用途ごとに調べていきますと例えば、運動の部分でいうと、若い人が実はあんまり運動してないっていうデータがあるとかですね、図書に関していくと、蔵書数は割とたくさん、しっかりあるんですけれども、実は余り登録者数が、他市と比べるとですね隣接市と比べるとあんまり多くないとかですね、実はそういった傾向があるのかなというふうにお見受けしています。ですので、施設等は充実している部分もある。古くなっている部分とかは、改変していかなきゃいけない部分はもちろんあると思いますけれども、ただそういったものにちょっと触れる機会というのが、なかなか、そういった機会が生まれにくい環境がもしかしたらあるのかなというところを今回、駅前ですので、やっぱり人が通過する部分も人が集まる部分になっていますので、そこで、いろんな、機会、自分が今まで体験しようと思っていなかったところが自然と入り込んでくるというかですね、そういう機会を創出するようなものがこの駅前だからこそできるんじゃないかなというようなことで、今までちょっと思っていなかった体を動かす機会に触れるとかですね、先ほどの図書を分散するということも、自分の分野じゃないところにちょっと触れる機会が自然と出てくるとか、そういう機会を創出するようなものを一つテーマにするのが今回の駅前の施設のテーマではあるのかなと思っていますので、実際の専門的な活動に関しては、既存の施設でやるということもあるでしょうし、もちろん、今回の駅前の拠点でしっかりやるということもあるかと思うんですが、そういう機会創出になるようなものっていうのもテーマの一つなのかなと思ったりはしています。

森ビル都市企画 山崎氏

すいません森ビル都市企画の山崎と申します。先ほどちょっと事例でいろいろ主なもので見ておられた事例の中で実は茅野市なんですけれどもあれ、人口5万人なんです。大体今、福生市さんと同じぐらい。駅前でやっぱり長野県の中でも茅野市は結構郊外化が進んでいるので駅前が比較的何もないというかですね、市街地がちょっと広がっているんですけれども、こちらにあまり何もなくて、駅を出るとすぐに文化施設があつてですね、結構公園っぽく見えるんですね。そこで、施設としてはやっぱりコミュニティーをいかにつくっていくかっていう、その開業後、開業前もですね、地域の人たちがファンクラブつくったりとかして、この施設をどう利用していくのかというところを、開業前から市民の方々とコミュニケーションをして、ここを使う人たちを、ファンを事前につかんでいくというかですね。そこでどういう活

動が生まれるのかってことを把握しながら、ハードに落とし込んでいっているというところでそういった、もう既に利用される方々が開業前から参加型でやっているの、この施設の稼働率もかなりやっぱり高い。そのような使い方をされているというのが、実際やられているところであって、あと、この図書館だったりだとか、ホールだったり、美術アート系の箱があるんですけども、先ほどの見ていく中でやっぱり、つなぎの空間のところ、図書館っぽい機能だったりとか、パブリックの空間の中で、若い方も、高齢の方もみんなちょっとふらっと立ち寄って集まれるような場がしっかりあってそこが使われているというところを考えると、今回もやっぱり人口5万人で、大きいホールとかですね、そういったものに関しては、周辺にけっこう、シリウスも、人口24万人ですけどもやっぱりあいたところに、演劇だったりだとか、立派なクラシックコンサートかやるホールはあるので、やっぱり、この福生っていう土地から考える立地環境を考えるとやっぱり、コミュニティ地域の人たちの活動が生まれるような場をどうつくっていくのかということを考えていくっていうのは、非常に魅力的なものにつながっていくのかなというふうには考えております。もう1個だけ、今の話につながるんですけども、開業後の話でいくとですね、やっぱりそういったコミュニティーが既にでき上がってきていて、開業後、運営者のほうで年度の計画をこの施設の年度計画を立てていく、その段階では、実際コミュニティーから生まれたいろんな団体さんからですね、年度計画に対するこう提案がなされると。イベント等も提案ですね、これ自分たちはこういう活動をしたんだと、そのほうあたりを運営者の人ともディスカッションしながら精査して、もうどんどん、年度の計画を市民が発で市民発の年度計画ということでしっかりこう組んでいくようなことができ始めているんだよ、というお話もおっしゃっていました。ただ、開業当初はやっぱり運営者側からいろいろイベントを打つだとか、そういう動きになるんですが、少し時間がたってくると皆さんも、状況がわかってきてどんどん新しいイベントの提案が市民側から出てきて、要望ができていますよというようなことはおっしゃっています。

撰梅委員長

すいません。アール・アイ・エーの方もぜひ。

アール・アイ・エー 今井氏

設計事務所でアール・アイ・エーへの今井と申します。全国で公益施設的设计等をやらせていただいて、大村さんから発表いただいた茅野ですとか、大和市のシリウスとかですね、共通しているのが、先ほどもちょっと発言中でもあったんですけど、子どもたちが多いとかですね、子育て世代の利用が多いということが非常に重要で、今回も福生市もなるべく子育て世代の流出を防ぐとかですね、子どもたちが安心して使える場所をつくっていくっていうことは一つの課題の解決になるかなという中でいくと、子どもたちの居場所をどうつくってあげるかっていうことが結構気になっているかなと。子どもたち、あとは子育ての親御さんたちが安心して使える場所をつくってあげるという、それと、子どもたちが行っているところを、例えば、親もちょっと行ってみようとかですね、孫が使っていて、何とかのイベントがあるので、おじいちゃんたちも一緒に行ってみようとかですね、中高生ここで勉強したりとかしていると、親御さんが迎えに来て、駅前に迎えに来たついでに近くの商業施設で何か買い物をして帰ろうとかですね、子どもたちをきっかけに多世代との交流って生まれやすいというのが、この事例の中でも結構特徴なので、今回福生市も若い世代を一つ起爆としてですね、人を集めるということが結構、可能なんじゃないかなというふ

うに思っております。

撰梅委員長

突然振って申しわけなかった。ただそういう専門の方からの、どうしたら意見が聞けるかと思ったんです。市の方と打合せせずで突然振りました。すいません。

大村主幹

それでは意見を頂戴したということで、次第に沿って、次の議題に進めてまいりたいと思います。ディスカッションということでいろいろ話をしていただいたんですが、先日、福生高校のほうにですね、私を初め委員長と副委員長に御同席いただいて生徒さんに意見を聞いてみました。各委員さんにはその内容は、御配付をさせていただいたのですが、今日改めて内容を踏まえ、意見をいただいたことについて、意見を申し出た方からちょっとこの場で、改めて一言いただければなと思ひまして、次第に上げさせていただきます。早速ですね、意見をいただいた方がですね、ちょっとこちらで御指名をさせていただきますので、意見に対しての、考え方ですとか、お話をお願いいたします。中出委員のほうからすいません、お願いします。

中出委員

はい。テーブルのほうに印刷をした意見のほうがありますので、一応それが意見で、それに基づいてちょっとお話をさせていただくんですが、今いろいろと御意見御説明等いただいた中であえてちょっと違った視点でお話をさせていただこうかなと思ひますが、今回ヒアリングいただいたのが高校生ということなんですけれど、お伺いするとどうも福生市民ではない高校生の方が多いということなので、高校生の子どもたちが大人になってからこの施設をどう使うかという視点ではなく、高校生ですとかもうちょっと下、子どもたちがこの施設を使うっていうことに対してどうなんだろうかっていう点で、ちょっと考えてみました。それで高校生になりますと、福生の場合ですとどうしても駅がたくさんありますので、必ず市民と言ってもその福生駅を普段利用するかっていうと、そうではない中で、やっぱりここの公共施設を使うということになると、どうしてもその通学で福生駅を利用している子どもたちがついでに使うっていうような形になるのかなあというふうにはちょっと考えました。この質問の中で、どんな公共施設を使っていますかっていう問いの中でも、やっぱり昭島であれば、昭島の施設ですし、羽村であればゆとりぎをとということで、どちらも駅にそんなに近くない公共施設ですけど、高校生ですとやっぱり市内の施設、どうしても移動手段、多分自転車だと思うので、特に駅に近いっていうメリットっていうものが、高校生、中高生も含めてあるのかなあっていうところはちょっと感じていたところです。演劇部の子たちも多かったのもその演劇をする舞台発表の場としてやっぱり駅前というものは有効だというふうな御意見もあったんですけど、本当に先ほどターゲットの子どもたちの居場所っていう話もあったんですけど福生駅のところで、子どもたちの居場所になる公共施設をつくるということになると、やっぱり何か単に子どもたちの学習スペースっていうだけではちょっと弱いのかなあっていうところで、その付加価値というものをせっかく駅前に一定の勉強もするけれどほかにもいろいろなことができるんだっていうものがやっぱりないと、ちょっと中高生に対して福生駅にこんな施設ができましたっていうところは、余りメリットというものがもしかしたら感じられないのかなあというふうにはちょっと感じていたところです。先

ほど話しをいろいろ聞いていた中で、やっぱり何でもかんでもこの中に盛り込むっていうのは難しいっていうお話もありましたので、一つの意見なんですけれども場合によってはターゲットの順番としては、中高生というのはもしかしたら非常に下がってくるのかなっていう、もうちょっと下の子どもたち、親と一緒に駅前に行って先ほど言ったその預かってもらうだとか、子どもの何かしてるのを親が見るとか、もうちょっと子育て世代っていうターゲットでいくと、もうちょっとターゲットのことも下のほうに使い勝手のいいものっていうものをまず考えた上で、余裕があれば、中高生も当然その学習スペースとかあれば行く子どもたちは多いと思うので、ちょっと小中高生っていうのは下げてもいいのかなっていうふうな、ちょっと今お話を聞いていて感じたところです。以上になります。

大村主幹

ありがとうございます。引き続き森田委員をお願いします。

森田委員

はい。御存じのとおり福生市はとにかく、外国人が多いと。現在 3,500 人ぐらいですか、人口 47,000 人のうちの、約 6%、これもずっと前からそうですよね。今後もこれは続くと思うんです。高校生の学生さんもここに、福生の特性を生かした限りという文化交流ということで出ていますけれど、やっぱり多文化共生を目指したもの、これは福生じゃないと他の市じゃ。福生ならではのものと言え、やっぱり、多文化共生だろうと。これはしかし非常に難しい問題ですよね。だけれども難しいからできないってのは困る。どういうものができるんだと、ハードもソフトも必要でしょうし、どうやってやるかということは課題なんですけど、何かそういう施設と、ソフトかなと。外国人の方が見ると、10代20代で約6割なんですよね。これからも、ずっといるかもわからないし、変わるかもしれないと思われ、ということで、何かそういう物というか、施設というかね、そういう仕掛けが駅前に欲しいかなと。折しも、たまたま、これは1日でしたっけ、今日出たばかり。何か多文化共生に関する実態調査に協力してくださいと広報出ますけど、そういうことで、市民の方にも問題意識を持って、全く関係ないと逃げないで、我々としては、やっぱりこの中でやっていくにはどうしたらいいかと。一応その辺を、何かこう少し仕掛けができるようなことができればいいかなと思います。以上です。

大村主幹

ありがとうございました。

撰梅委員長

ちょっとすいません。私町会長協議会を代表して出席していますが、お話の中で実は、武蔵野台とか、加美平かな、実はあの辺の町会さんは翻訳機を買ったりして、まさにその、いわゆる外国人の方と接するかということまで踏み込んで行っていて、実は私どもはなかなかそこまで踏み込んでないんですけども、町会によっては、いかに外国人の方とうまくやっていくかっていうことに努力している町会もあります。私は7月28日に、そこへ行ってきた1人です。先ほど委員の方から話ではあったように10名、全てが、実は、福生市以外から、通学されている方たちなんで、ちょっと、その点は、そうなんだという状況だったんですが、学校に対する愛校心が、福生への思いを、感じる機会でした。私としては、

福生に住んでない子どもたちですけども、卒業してから、例えば結婚して福生に住むとか、それから、勤め先が福生であるとかいうような形で、将来的に福生に戻って来てほしいなという感じがしました。学生たちの発言の中で感じたのは、福生のイメージアップにつながる、駅前の顔になるような施設であってほしいなというのを感じました。

それから二つ目が、学校帰りにですね、利用できる居場所スペースとしての自習室、今はファミレスが居場所だそうです。その場合にスペースとして欲しいのが1人で集中できる場所。また、何人かで話しながら勉強できるようなスペースが欲しいというようなことを言っていました。それから、多分、食べるのはなるべく控えてほしい、せめて飲みながら何かやるっていうのは認めてあげるのがいいのかなと思って。今さっきの施設にも出ていましたけれど、いわゆるカフェを併設したりするようなものもいいのかなと、あとだから図書関係では、専門の小スペースが、何か求められている、音楽とか、それから、先ほど来話あるように、外国人との文化交流ができるような施設があったらいいなど。あとは、意外と今あるダイソーであるとか、二木の菓子とか、高校生にとっては支持されて、重宝に使っているみたいなので、今後、令和8年にできたときに、そういう施設の中で、従来の親しみのある商業施設がまた残ってほしいなというのを感じました。

あと、今回、福生に住んでいる子がいなかったんで、なかなか時間的に難しいんだけども、可能であれば、中学生から意見を聞くとか、40年50年スパンでいったら、我々だけが検討するよりも、なるべくそういう、中高の子どもたちから意見を聞くっていうのがやはり、いいのかなというふうにまだ思っています。あと、私のほうでちょっと何ていうのかな。高校生の中で絵画とか音楽とかそういうことの活動やってる子たちからの感じで、何か、そのフリーのスペースで、私はイメージしたのは、七夕の飾りのとか、クリスマスアートがもう10メートルぐらいのツリーなどがどんとメインに、季節的なものが入るような、吹き抜けがあるようなスペースがいいなというふうに感じました。雑駁ですが以上です。

大村主幹

ありがとうございました。高校生の意見なので、非常に参考になる部分と、ちょっとエリア限定されている部分も正直あるのかなというのがあるんですけども、やはり今、委員長おっしゃったように将来福生に来てくれるとか、住んでくれるとか、そういうのをやはりターゲットにもしたいなという思いで、高校生のヒアリングもさせていただきました。ちょっと今後どこまでヒアリングするかっていうのはなかなかちょっと時間的な制約もございますし、その辺をターゲットにというのは非常に厳しいということから、本来の趣旨であります市民の代表の皆さんの意見を聞きたいということも今回の会議に盛り込んでますので、それについては、ちょっとこの場で結論を出すのは控えさせていただきたいなと思っております。今の御意見に対して何かほかに御意見がある方はいらっしゃいますか。

北島委員

私当日福生高校の生徒さんたちとのヒアリングに参加したものですいません。きちんとした上でこういった報告をしていないのですが、確かに福生市に住んでらっしゃる高校生の方がいらっしゃらなかったっていうのは、えっと思ったんですが、逆に福生市民で無いにもかかわらず、福生市のイメージっていうのがすごく皆さん、高校生、すごく明るくて、人がとてもすばらしいっていう、そういう印象を持っているっていう意見いただいたんですね。さらに、実際にヒアリング参加している高校生の中

に、福生市民で無いながらも、市のイベントの規模にも参加してみたいっていうのはそういったね、御意見いただいた高校生の子ども、生徒さんもいらして、非常に福生っていう地域が以外に受け入れられているんだっていうイメージを非常に受けたんですね。だから、市民としてもそのときはうれしいと思ってしまって、すごく、福生市のイメージは、福生駅を利用している子たちだと思いますが、非常に受け入れられている。それから、福生市のイメージを悪くないっていうのはすごくうれしかったです。以上です。ありがとうございました。

大村主幹

三浦委員どうぞ。

三浦委員

はい、公民館運営審議会から来ています三浦と申しますけども、個人的には、子育て世代の、人間かなと思って、ちょっと意見を言わせていただこうかなと思います。私も子どもが今、上の子が10歳なので、恐らく施設ができるころには中高生になって、どんな施設になるのかなあって、今、子どもたちが使いやすいのってどんな施設なのかなと思いながら、想像しながら、見ていました。先ほど大村さんもおっしゃったように、いいところ取りをしてほしいと。私も本当に今見てきた施設の中で、本当に福生ならではの物など、やっぱりいいところたくさん取り入れてほしいなっていうのは思っていますけども、そのいいところっていうのが、誰にとっていいところなのか、子どもにとっていいことが高齢者にとっては不都合であったりとか、障害者にとっていいことが、なかなか、若い子たちには難しい。利用しづらいっていうことがあったりとかも考えられるので、いいところ取りのいいところっていうのが、今後どういうものかっていうのを皆さんのお知恵を借りながら、議論していきたいなっていうのが一つ感じました。あとは公民館の保育室運営の保育者としてもふだん働かせていただいている、ちょっとコロナの影響があって、11月から講座を再開するに当たっていろいろ皆さん、皆で保育者の皆でも議論はしているんですけども、そういったお母さんたちと触れることもあったり、福生市にあるファミリーサポート支援を今活動していて、小さいお子さん、3カ月の今、お子様5カ月になるんですけど、お預かりするような事があって、子育てしているお母さんたちにまず、保育者という立場もあるし、同じ子育て世代の親っていうこともあって、必ず聞かれるのはどこに行き遊んでいますか、どこで子どもを遊ばせたらいいですかって、よく聞かれます。やっぱりお母さんたち福生で子育てしていて、どこが安全でどこが安心で、どういったところで遊ばせていいのかっていうのは、ほとんど私はずっと生まれてから福生に住んでいますけども、結婚して初めて福生に来て、初めて福生市で子育てをしてっていうお母さんというのはまず公共施設がどこにあるかっていう場所もわからないですし、その場所で何をやっているかっていうのも、なかなか広報だけでは伝わらないですし、チラシ見ただけで、自分が対象になっているのか、どういうふうに連絡をとっていいのかっていうのもわからない。ファミリーサポートってあるのは知っているけど、どこに電話して、どういう手続きを踏んで登録をしたらいいのか。どういう人が利用しているのかっていうのがなかなかわからなくて、実際私がファミリーサポートでこういう活動しているよ、こういうことをしているよっていうお話をすると、私もやってみようとか、そういった横のつながりというか、お母さんたちの横のつながりっていうのは福生すごくやっぱり小さい市ですので、実は私が預かったお子さんと、別のお母さんがもう知り合いで、誰々さんちでサポートしている、こういうサービスしてますよね、うちにも来てくれ

ますかとか、別の依頼の方が御指名で、ファミリーサポート会議の三浦をお願いしますってこう、もう名指しで、要望が来たりとか、横のつながりっていうのはすごく多いです。福生市の子育て世代のお母さんたちのネットワークっていうのは、うまく活用して、今度は縦のつながりができるような施設があると、横と縦とっていうのがうまく融合できる施設があるといいなっていうのは感じてます。お母さんたちは自分たちで今、ネットだったりSNSとかいっぱいありますので、情報発信したりとか、共有したりっていうのはできるけども、それを行政に聞きに行ったり、利用したりとかっていうのが、なかなかちょっと壁を感じていて、使いづらいとか、聞きづらいっていうのもあるので、公民館もそういった施設っていうかそういうお母さんたちと、保育室で触れ合う中で、こういうサービスもあるこういうサポートも利用してっていうのはいろいろ教えたりとか、つながりを大事にしていきたいなっていうのも一つ課題となっているので、子育て世代をメインにする施設がもしできるスペースがあるとしたら。さらに、保健センターであったりとか行政にサービスがどんどんお母さんたちが広がりを持てるような情報交換っていうか、そういったスペースっていうか情報共有できる環境ができたらいいなと思いました。あとは、子どもたち、中高生が利用するに当たって、すごく人間関係が高まった時期とか、なかなか大人では理解できないトラブルもきつと出てきたりとか、金銭のやりとりとかがトラブルにつながるようなことがあるんじゃないかなって。だからすごく、スペースをつくったときに死角が生まれないのかなとか、カメラを設置するじゃないですけど、やっぱり広く大人が監視できるようなフリーのスペースと、なおかつ集中できるようなこのスペースっていうのがうまくバランスがとれるように配置されていけばいいなって、この開放的な施設のイメージ等ちょっとこう区切られたスペースの写真を見てちょっと私は感じました。以上です。

大村主幹

はい、ありがとうございます。すいません。ちょっと補足ですけども、今回市のほうの行政サービスということで、チャットポッドということで、スマートフォンでキーワードを入れると、どこに行けば何がいいみたいな、そういう情報のサービス、ちょっと、市施設の使用っていうんですか、試行でやるんですけれども、そういうようなものもですね、今後御活用いただいて、不便なところがあれば担当課に直接電話していただいてもいいんですけれども、そういうようなものも始めましたので、ぜひさまざまなネットワークを活用していただいて、それでも足りない部分は、直接、市民の意見として、市のほうに言っていただくのも、もう今の時代ありだと思いますので、どんどん言ってくだされば、そういう垣根ですとかはとりたいなとは思っています。あと中高生の利用っていうのは、当然、いろいろな人間関係あると思いますので当然新しい施設ですから、パブリックなところには監視カメラ等も、入れるようなあとは考えております。ただ、プライベートな部分ですね、当然、図書の閲覧ですとか、勉強を何しているかっていう部分は、なかなかちょっと、個人情報の保護ですとか信条とか思想のそういう事由というのがありますから、そこはちょっと厳しいのかなと思うので、建物の出入りですとかそういうぐらいまででしたら、撮影もいたし方ないのかなと思いますけども、それについてはちょっと、今一度こう考えさせていただきたいとか、なるべく犯罪のない、そういうのが無いのが1番いいんですけども、ちょっとこの場での回答は差し控えさせていただきたいというところでございます。すいません。

森田委員

ちょっといいですか。ちょっと参考にね。聖蹟桜ヶ丘。多摩市ですよ。多摩市関戸、南武線ですよ。人口 15 万人、私この四、五年友達がそこでコーラスやっていますもので。駅前に、関戸公民館はヴィータビーホールがあるのですが、これは、6 階まではショッピングセンターですけど、7 階に、まさに、子どもたち、結構でも老若男女ですね、子どもたちだけでなく、そこでテーブルがあって、いろいろと間隔を保って、15 ぐらいありましたかね。お茶飲んで帰るんですけど、そこで簡単なカフェがありまして。毎回行っても結構いっぱいなんです。駅前で 15 万人もいればそうかなと思うんですが、非常に皆さん便利でね。ホールを使ったりとか、やはりお年寄りがお茶飲むとかってということで、こういう、部屋、学生さんのやっぱり利用できる居場所云々とありますけど、これも大変有用かなということで参考までに、はい。よろしくお願いします。

大村主幹

ありがとうございます。今のお話ですけれども当然これからの時代、コロナ以降、コロナ禍なんていう話がありますが、今回いろいろな意味で自粛ということで、会社に行けない方が例えば家でリモートワークとかをするっていう、そういうような事例も非常に多く見られたと思います。リモートワークするのに、それは家でそういう施設環境が整っていたり、そういう場所がある人はできたと思いますが、急にやってくれと言われても、そういう環境もなければそういう場所もない人については、なかなか厳しいのかなと思います。今回西口に整備しようとしている施設がある意味、その代替を担える部分であれば、いいのかなあということも一つの考えにあります。先ほど言いました、有料で、例えば借りる席なんかは、例えばビジネスやる人が、じゃあ時間幾らかお金を払って、自分の仕事をやるために、そのスペースを借りるみたいなところは、活用していただくのなんかすごくいいのかなと思います。いわゆるサードスペースっていうような今言葉がありますけども、家と職場以外の 3 番目の場所としての選択肢っていうんですかね。そういうような活用の仕方もあるのではないのかなあとは思っております。ある程度、ソーシャルディスタンスをとりながらですから、席数とかも限られてしまうのかなと思いますけども、そういう活動、活用というのは、視野に入れて整備をちょっとしていきたいと考えています。以上です。はい。

他に意見がないようでしたら、次第の 4、全体的にその他ということですが、何かございますでしょうか。はい。特になければですね、ちょっとこれ、事務局のほうから、今後のこの会議のあり方について、お話をさせていただきたいのですけれども。当初は、大体 10 月、11 月を目途にということでお話をさせて会を終わらせたいということで、お話をしていたのですが、やはりコロナの関係で、なかなか会議を開けなかったということで、実際に皆さんとお会いして、こういうような会議を持たせていただくのが今日は実質 3 回目ということなんですね。ただこういうような内容でずっと会を進めても、なかなか埒が明かないというんですか、皆さんのお時間をとるようなことにもなってしまいますので、ある程度の意見をいただけたかなという感触ではあるのですけれども、今後については、当初の予定どおり、皆さんからの意見書として、ある程度の形を今後少しまとめていきたいなど。思うんですが、委員長いかがでしょうか。

撰梅委員長

はい。予定ではいつ終わるんでしたかね。

大村主幹

11月に最後の確認をさせていただきたいと予定しておりました。

撰梅委員長

なるほどね。はい。検討委員会の開催の回数も、あと時期も、新型コロナウイルスの関係で、ずれたり、回数が少なかったりしているのですが、その中でも、各部門の代表からいろんな意見が出て、市でもいわゆる市民からの意見ということとしていろんな切り口が出ていますので、ここで、今まで全体意見をですね、できたら事務局のほうでまとめていただいて、11月の検討委員会を予定されてるそうなので、そのときに、皆さんにお見せしていただくという形で、意見書の集約をですね、事務局のほうにできたらお任せしたいんですけどいかがでしょうか。よろしいですか。はい。ちょっといかがですか。ありがとうございます。

大村主幹

今委員長からお言葉をいただきましたので、我々の方ですね、あくまでたたき台ということで、意見書の案を作成させていただきまして、次回の検討委員会の方にお示しをさせていただきたいなと思います。次回の検討委員会の前には、皆様のお手元に届くようにしますので、当日に初めて見るようなことがないようにいたしますので、皆さんの中で、この部分をもうちょっと加味してほしいですとか、ここはこういう表現にしてほしいというものがあればですね、その場でまた、議論いただければと思っております。はい、ありがとうございます。次回の会合なんですけども、やはりちょっと御都合が皆さんあるでしょうから、できれば今日この場ですね、一旦決めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。候補が11月5日の午後。11月6日の午後、もしくは11月9日の午前午後。11月10日の午前午後、このスケジュールの中で御都合が悪い日がある方はいらっしゃいますか。

大村主幹

はい。11月9日の午前中はいかがですか。ございませんか。よろしいですか。はい、では11月の9日の午前中、時間は同じでよろしいですかね。9時半でよろしいですか。場所はですねこちら同じ9日以上になりますので、はい、今回は、第4回の会議ということで、11月9日、午前9時半から。ここを同じ場所、第2棟4階の委員会室で開催ということでお願いいたします。先ほど申し上げましたが、資料については事前に何らかの形で皆様の手元に届くようにいたしますので、一読していただいて、当日、お越しいただきたいということでございます。

撰梅委員長

はい。じゃあ、私のほうは、今日は森ビルとあと設計の方もお見えいただいて、意見も聞かせていただき大変参考になりました。あと、部長のほうからお話しいただいて、それでは閉会にしたいと思いますよろしくお願ひします。

北村参事

本日はお忙しい中、またコロナの状況の中で御出席いただきましてありがとうございます。今日の会議

の中では、福生に今ない新しい公共施設、それを御覧いただく中でですね、貴重な御意見をいただき本当にありがとうございました。それをですね、西口の今後、公共施設整備の中に活かしてまいりたいと考えております。そしてですね、私の大きな期待なのですけれども、西口に新しい公共施設ができましたらその利用者による大きなコミュニティーができることを本当に期待しております。それで皆さんに福生を愛していただきたいと、そのように思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

大村主幹

これもちまして、本日の会議を閉めさせていただきたいと思います。皆さん本当にお忙しい中どうもありがとうございました。